

あし

ハイキングクラブ



ちんぐるま

第340号

2018年2月8日発行

先月の山行

- ☆ 1月 2日 (火) 日野山 山行報告参照
- ☆ 14日 (日) 大雪になりました
- ☆ 20日 (土) 荒島岳 山行報告参照
- ☆ 28日 (日) 越知山 山行報告参照

2月の予定

- ★ 8日 (木) 例会
- ☆ 11日 (日) 岩籠山 762m
天候により金ヶ崎～中池湿地周遊
CL
- ☆ 25日 (日) 取立山 1307m
CL

2月の予定

- ★ 8日 (木) 例会
- ☆ 11日 (日)

- ☆ 25 (日)

冬季は積雪を考慮し決定します。

遭難対策基金 1000円年会費 6000円
会計までお願い致します。

山行申込み方法

・例会時に未定であったり、山行申込済で都合により
いけなくなった場合は、前々日夜までに山行リーダー
へ直接連絡してください

山の予定は天候に左右されます。より hot な情報は

<https://asihiking2.jimdo.com/山行計画-1>

検索し再確認して下さい。

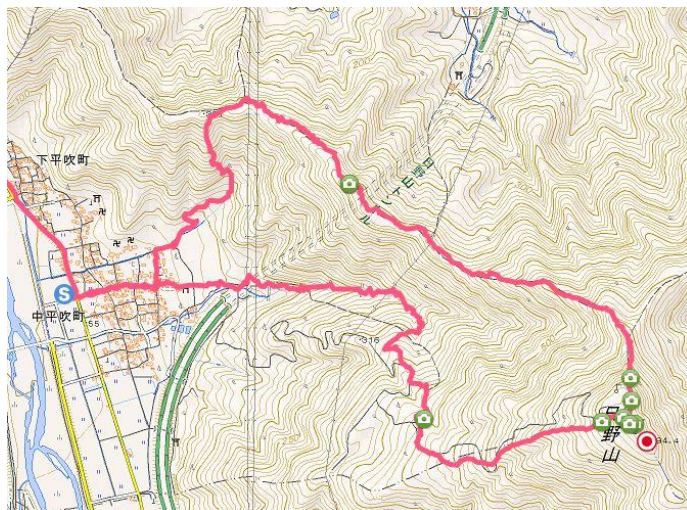
山行計画書を提出して下さい

クラブ山行の場合はリーダーが、個人山行の場合は
それぞれで山行前日迄に宮本会長まで。

[山行報告]

日野山 794m

1月2日



雪研 7:00 集合

スタート 8:00(中平吹公民館駐車場)

↓ 2時間

山頂 10:00(食事約 50分)

↓ 1時間 50分

ゴール 12:40

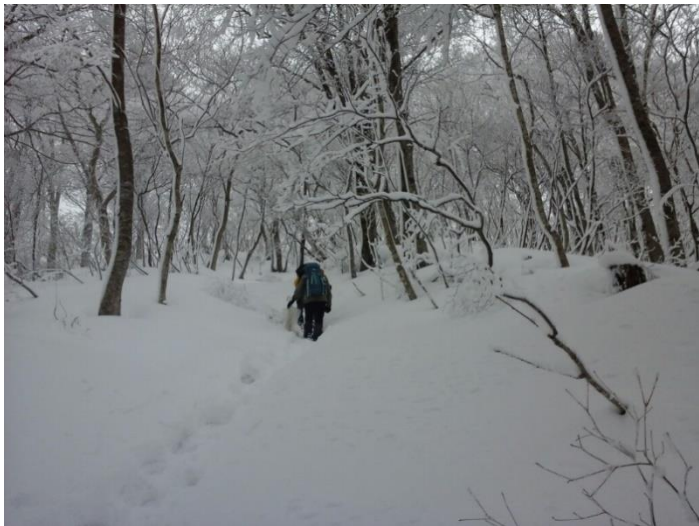
活動時間 4時間 40分・活動距離 7.6km・高低差 734m

2018年初山行。ここ数年間の初山行は荒島岳でしたが、ここ数日の天候では「しゃくなげ平」まで行けなかったでしょう。平野部はともかく、ある標高以上はしっかりと降っている冬です。

室堂までは足元の雪対策は不要でした



ここでワカン等装着
頂上近くは白銀



山頂の鳥居はこうなります



このスタッフを見て、積雪をいくつと判定するかは悩ましいですが1mプラス「見えてる数字」です。



恒例の汁物はゼンザイでした。ご馳走さまでした。



私は逢ってませんが、日野山に足繁く通った「キング君」は2017年1月20日18歳で亡くなられたそうです(山頂小屋内にある写真群のひとつ)。



下山ルート途中からは、通常踏み入れる人はいないに違いない、素適なコースでした(笑)。これは是非皆さん機会をつかまえて体感されたい。



この会で行く雪山は、雪崩等の心配は限りなくゼロに近く、ある程度の積雪は下山時の膝等への負担を軽減してくれます。まばゆいばかりの景色と共に、付随し刻まれる記憶の多い豊かな山行をありがとうございました。

太郎坊とグルメ山行

1月7日



今年もまた太郎坊に勝運を祈願にやってきました。木之本から下道で琵琶湖湖岸を走る。ようやく夜が明けてきた。彦根の琵琶湖沿いを走っていると、琵琶湖の向こう側の雪を被った比良山系、高島の山並みが赤く輝いている。モルゲンロートだ！琵琶湖とは思えない光景です。冬でないとは決して見ることでできない景色です。停まって写真を撮るべきだった。

予定通り8時に太郎坊の駐車場に着く。皆、初めて見る太郎坊にビックリしているようだ。石段の登り口に着く。本殿まで326m、約740段の石段の始まりです。登ると最初の寺、成願寺に着く。清家さんが賽銭100円を入れ鐘を鳴らす。成願寺からまた石段が始まる。先が見えません。息が上がってくる。ようやく祈祷殿に着く。祈祷殿の駐車場からは展望が広がっている。裏参道から登ることにした。七福神の石像の前を通り、一願就社に向う。願かけを行う建物です。その裏にはお百度参りの石柱がある。さらに奥に進むと願いが10倍になる心願十倍石もある。本殿に向う。急な階段を登ると展望台に着く。ここからの眺望は良い。目の前に東近江市が広がり、奥には湖東の山並みが連なっている。本殿には地元の野球部でしょうか、大勢の人が祈祷を受けていた。本殿で今年の勝運を祈願する。本殿を下り、大きな岩の裂け目の夫婦岩を通る。すれ違いができない位の裂け目です。夫婦岩を通り過ぎると、龍神舎に向かって下りていく。龍神舎の中を通り過ぎると登山道の始まりです。しばらく進むと雪が登山道の脇に出てきた。分岐に着くと、左に折れ赤神山に向う。赤神山の頂上は岩の頂上です。360度の眺望。伊吹山、霊仙山が綺麗だ！しばしここでコーヒータイムです。寒くも無く、眺めも良く、至福の時間です。箕作山に向う。ここからは小さいアップダウンを繰り返しながらの縦走です。箕作山に着く。ここは右と左の眺望を楽しむことができる。左は登ってきた赤神山、右は伊吹山、金糞岳、横山岳が見える。雪を被っているので、金糞岳も横山岳も確認できた。次は小脇山です。ここは左側しか見えない。先月登った綿向山や雨乞岳が見えた。少し下りた所に山城の跡がある。さら

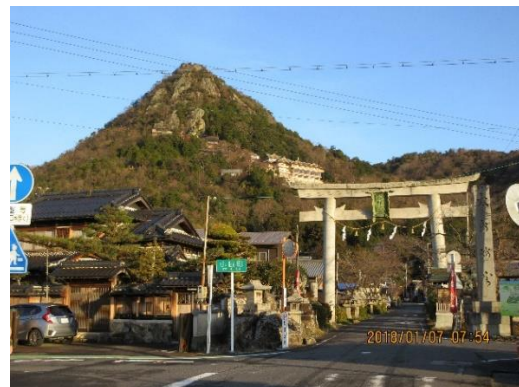
に進むと岩戸山に出る。岩戸山は旗振りの山です。米の相場を知らせるための旗振山だそうです。旗を振るだけのことあって、見事なビューポイントです。十三仏に向う。十三仏は石仏が十三体だと思っていたら違っていました。聖徳太子が巨岩に自らの爪で刻んだとされる磨崖仏でした。でもどこにあるか分かりませんでした。

ここからは石段を下っていく。太郎坊の石段より多い気がする。どうも約800段あるらしい。ここの石段は巨石の塊で苔も生きているので大変滑りやすい。慎重に下りていく。石段が終わり、竹林を通り、出口に出た。ここからは車道を歩いて駐車場に戻ります。計画通りの時間で山行を終えることができました。

次は昼食です。行列のできる店、みくりやに向う。11時30分に着く。行列ができていない。まだ12時前だからでしょうか？特大海老天カレーうどんを注文。巨大なエビフライと海老天がカレーうどんに刺さっている。全員が写真に撮る。うどんが熱い！程よい辛さが丁度よい味を出している。エビも美味しい。器に似合わず結構食べ応えがある。

次はデザートです。ラコリーナに向う。到着すると駐車場が満車状態。空いていないかウロウロしていると出ていく車がいた。すぐに停められて大変ラッキーです。垣根を越えるとラコリーナです。建物を見るだけでも価値があると思う。目の前一杯に広がる建物。屋根が茅葺きでしょうか？草で覆われている。建物の裏も素晴らしい。大きな池の周りを建物と屋根付きの通路が囲んでいる。池の中には巨石が置かれている。インスタ映えする壁画や極小のドアなどがある。清家さんと大越さんが土産を買うため並んだ。私と伴藤さん、津田さん、下村さんの4人で出来たてのバームクーヘンを食べるために並ぶ。順番がきて席でバームクーヘンを待つ。きた！出来たてのバームクーヘンにフォークを入れると、スーと切れてしまう。生クリームをのせ口に運ぶ。溶けるようだ。今まで食べたこと無い感触です。初めて体験するティータイムでした。

以上



荒島岳・モチガカベの二の坪まで（勝原コース往復）

日時 2018年1月20日（土）

今日の午前中は天気良くなるというので、雪景色の期待を込めての山行です。

カネキ駐車場は凍っていて、道中もマイナス4度。でもガスは発生してなく、はっきりしない天気です。雲上の亀山城も期待外れ、ただ真名川の霧氷は少しありました。

さすがに百名山、7時過ぎなのにすでに駐車場には20台以上の車があります。

運よく私たちの車はゲレンデの一番近くに置くことができました。雪質を見るとカチンコチン。これはアイゼンに限ると装着します。用心のためワカンもリュックに着けます。

ツボ足の友清さんを先頭に出発です。前日登った人のトレースをいただいて歩みますが、かえって歩きにくい。踏み跡のない所を進みます。でも運が悪いとガボッたりします。旧リフト手前で暑さに負けて服装を整え直します。気合を入れ直して先を進みます。

津田さんがヒメリンゴに似ている実を見つけました。かじってみるとリンゴの味がすると言います。このタイミングで伴藤さんが小袋に入れたリンゴを出します。おいしかった。

「トトロの木」に1時間で到着です。この先でやっと友清さんがアイゼン装着します。先を進むと幻想的なブナ林の登場です。最後の急登を進むとシャクナゲ平に着きました。ここまで登山口から2時間、無雪期と同じペースで来ました。帰りにここで食事をするというので、余分なものはデポします。



随分と荷物が軽くなり荒島本峰に向かいます。いよいよ難関の「モチガカベ」の急登、雪がカチンコチンに凍っていて足場を確保するのが難しい。右方の斜面は切れていて落ちると---。シャクナゲ平より30分ほどで通称「二の坪」ピークです。いつもはここで白山連峰が眼前に現れますが、前衛の山しか見えません。周

りを見渡すとモノトーンの世界で、樹氷も現れました。小荒島もドーンと見えます。風が少しきつくなってきたようです。これ以上、上に行っても景観は期待できないので、ここで撤退することに決めました。

下りは恐怖心を抑えながら降ります。シャクナゲ平に着いた頃小雪が舞い始めました。まだ10時半ですが昼食です。シェフ伴藤さんの餅入りぜんざいを2個もいただきました。下山時、同行者3人は無茶苦茶早いスピードで進みます。到底あの速さにはついていけません。これが「あしハイキング」のペースでしょうか？途中マウンテンバイクを担いだ若者2人と会いました。驚いたことに頂上まで行ってきたそうです。でも自転車に乗れるところあるのでしょうか。理解しかねます。同行者3人のお陰(?)でシャクナゲ平から1時間10分で登山口に着きました。今日も楽しい山行になりました。



「モチガカベの二の坪」からのモノトーンの世界
「編集後記」



日本勤労者山岳連盟発行「登山時報」では、労山会員の皆さんからの投稿写真を募集しています。

登山時報投稿写真係 <mailto:tozanjiho@jwaf.jp>